



西日本シティ銀行創立15周年記念事業

NCB音楽祭2019

歓喜の喝采

2019年12月3日(火)

アクロス福岡シンフォニーホール

開場 / 18:00 開演 / 18:30

PROGRAM

公演プログラム

第一部

歓喜のステージ

ベートーヴェン / 「プロメテウスの創造物」序曲

「交響曲第9番」第4楽章(合唱付き)

第二部

喝采のステージ

九州音楽風土記

長崎

プッチーニ作曲 歌劇〈蝶々夫人〉より

「愛の二重唱」「ある晴れた日に」「ハミングコーラス」
「さらば愛の家」「さようなら坊や」

鹿児島
熊本

テーマ / 西南戦争

大河ドラマ「西郷どん」序曲 作曲:富貴晴美
「田原坂」 編曲:山下康介

柳川

テーマ / 北原白秋

「曼珠沙華」 作曲:山田耕筰・編曲:山下康介

筑後

合唱組曲〈筑後川〉より

「河口」 作詩:丸山豊・作曲:團伊玖磨

福岡

フィナーレ 博多のまつり

大河ドラマ「軍師官兵衛」序曲 作曲:菅野祐悟
「黒田節」 編曲:山本和彦
「オッペケペー」 編曲:山本和彦
「祝いめでた〜博多どんたく」 編曲:山下康介

総監督・構成・演出 / ^{ひろ わたり} ^{いさお} 広渡 勲 (演出家・昭和音楽大学客員教授)



福岡市出身。早稲田大学を経て東宝演劇部入社。
多くのミュージカルや歌舞伎公演を手がける。ジャパン・アート・スタッフに移籍後、(財)日本舞台振興会のプロデューサーとして、ミラノ・スカラ座、ウイーン国立歌劇場、パリ・オペラ座、英国ロイヤル・オペラ等世界の主要歌劇場やバレエ団の招聘を手がけ、バーンスタイン、クライバー、ベジャールを始め世界的な人脈を築く。演出家としては指揮者佐渡裕とコンビを組み、「メリー・ウィドウ」(2008年)、「蝙蝠」(2011)で大成功をおさめた。2014年の西日本シティ銀行創立10周年記念音楽祭から「歓喜と喝采」シリーズの構成・演出を担当。2000年フランス共和国文化省から「芸術文化賞シュバリエ」叙勲。

指揮 / ^{い ざき} ^{まさ ひろ} 井崎 正浩



福岡市出身。福岡教育大学在学中に国立ウイーン大学に留学。
1995年ブダペスト国際指揮者コンクールで優勝。同年5月国立オペレッタ劇場で「メリー・ウィドウ」を指揮してデビュー。以来、サヴァリア交響楽団芸術監督兼常任指揮者、ブダペストオペレッタ劇場客演指揮者などを歴任。2007年からソルノク市音楽総監督。2015年にはソルノク市における長年にわたっての文化芸術活動に対して、「カボシヴァーリ・ジュラ賞」(ソルノク市文化功労章)を授与され、同年8月にはハンガリー政府・大統領名によって民間人に与えられる最高栄誉である「金十字功労勲章」を授与された。現在、ハンガリーに在住する唯一人の日本人指揮者として高い人気を誇ると共にその実力が高く評価されている。

司会 / ^{かん だ} ^{くれない} 神田 紅 (講談師)



福岡出身、修猷館高校卒、早稲田大学中退。文学座附属演劇研究所を卒業後、二代目 神田山陽師匠と運命の出逢い、講談の魅力にとりつかれ入門、1989年真打昇進。古典から現代ものまで幅広い作品を得意とし、「芝居講談」という新しいジャンルを開拓。2001年紅一門を旗揚げ、現在弟子4人。講談教室「紅塾」を東京・福岡で開講するほか、子どもたちに国宝・金印複製を贈る運動に参加し、青少年の心の育成にも取り組んでいる。2006年国際ソロプチミスト福岡より「女性栄誉賞」受賞。2015年福岡市民文化活動功労賞受賞。日本講談協会会長。

◆ ソリスト

ソプラノ / 嘉目 真木子



国立音楽大学卒業、同大学院修了。フィレンツェへ留学。国内では、2015年東京二期会『魔笛』（宮本亜門演出）パミーナ、神奈川県民ホール『金閣寺』（田尾下哲演出）有為子、2016年九州交響楽団定期演奏会『道化師』（A.パッティストーン指揮）ネッダ、2017年東京二期会『フィガロの結婚』（宮本亜門演出）スザンナのほか、NHKニューイヤーパーラコンサートに出演するなど常に高い評価を得ている。2019年東京二期会『金閣寺』に女役で出演。二期会会員。

ソプラノ / 宮崎 希世子



活水女子短期大学声楽専攻科卒業。在学中、長崎県オペラ協会主催『フィガロの結婚』にてバルバリーナ役でオペラデビュー。「フィガロの結婚」伯爵夫人。「コジ・ファン・トゥッテ」フィオルディリージ。「ラ・ボエーム」ミミ。「椿姫」ヴィオレッタ、フローラ。くまみみクラシック主催「蝶々夫人」蝶々夫人。第33回国民文化祭おおいだ2018にソロ出演。北九州音楽協会会員。ラ・ヴォーチェ会員。北九州市少年少女合唱団指導者。白野江混声合唱団。東郷B&G。コーロ・マーレ。下関童謡愛好会指導者。

アルト / 八木 寿子



福岡県出身。福岡教育大学卒業。京都市立芸術大学大学院を首席で修了。「フィガロの結婚」「魔笛」「アイダ」「カルメン」などのオペラに出演。またヘンデル（メサイア）モーツァルト（レクイエム）ベートーヴェン（第九）など多くの作品でソリストをつとめる。日本音楽コンクール入選、飯塚新人音楽コンクール第二位、友愛ドイツ歌曲コンクール第一位、東京音楽コンクール第一位など受賞多数。現在、京都女子大学講師。

テノール / 井ノ上 了吏



福岡市出身。国立音楽大学卒業。1990年より渡伊。1995年に帰国後二期会、新国立劇場を中心にオペラのプリモテノールとして活躍。2008年にはブッチーニ誕生150年記念オペラ「三部作」の芸術監督・出演を果たした。2013年二期会公演「マクベス」マクダフ役で素晴らしい存在感と演奏で聴衆を魅了。二期会オペラ研修所講師。日本演奏連盟会員。昭和音楽大学・大学院教授。国立音学大学講師。二期会会員。

バリトン / 大山 大輔



東京藝術大学首席卒業、同大学院修了。《メリー・ウィドウ》ダニロ、宮川彬良作曲 歌劇《ブラック・ジャック》タイトルロールなど、数々の主役として出演。役者としても活動しており、劇団四季ミュージカル《オペラ座の怪人》では怪人役を務めるなど、その多彩な経験からの台本執筆、歌唱・演技指導にも定評がある。カクシンハンススタジオ（演劇研修所）講師。洗足学園ミュージカル・声楽コース講師。

◆ 出演

ピンカートンJr.役 / マックスウェル・クラフト Maxwell Kraft



アメリカ・ニューヨーク出身。映画「フェーム」の舞台にもなったニューヨークにある音楽と芸術に特化した名門校ラガーディア高校に入学し、数々の舞台経験を積む。これまでに、映画／MTVテレビ番組ショーなどに出演。また、ファッションモデルとしても活動している。俳優の傍ら音楽／デザインにも才能を発揮しており、今までに自身がプロデュースした2枚のレコードをリリースしている他、自身のファッションブランドも立ち上げている。現在もニューヨークを拠点に、さまざまなジャンルで活動中。

◆ 日本舞踊

梅川 壱ノ介



大分県出身。新潟大学卒業。2005年、東京バレエ団に入団。モーリス・ベジャール振付、「ボレロ」「ギリシャの踊り」、古典「ジゼル」など多数出演。2007年に日本の伝統文化に目覚め、国立劇場養成課の歌舞伎俳優の研修生となる。2010年に中村獅童一門に入り、中村獅二郎の芸名で初舞台を踏む。2016年、日本舞踊を専門とした舞踊家へ転身し「梅川壱ノ介」へ改名。以降、日本舞踊の世界だけに捉われず、テクノロジーやクラシック音楽とのコラボなど古典や現代アートとの融合作品を数多く手掛け、枠に捉われず幅広く活躍する。

藤間 修一郎



古典舞踊から洋舞ダンサーとのコラボレーションまで幅広い活動を行う中、2013年に自ら作曲し奏で舞うという業界初のミュージッククリップ【Deux VISAGES】を発表する。また、三味線演奏家（森永基木）でもあり、近年では外務省が後援する民間音楽外交使節団のメンバーとして海外公演に出演するなど、国内外で活動している。

藤間 裕太郎



藤間流師範。長崎県佐世保市出身。藤間 勘左に師事。裕輝会主催。日本舞踊協会公演や新作公演などに出演。平成30年佐世保邦舞連盟を立ち上げ普及活動に努めている。

オーケストラ / 九州交響楽団

1953年創立。アクロス福岡での定期演奏会をはじめ、「天神でクラシック」、「名曲・午後のオーケストラ」の自主公演のほか、青少年向けのコンサート、オペラやバレエ、合唱との共演、ファミリーコンサートなど内容は多岐に渡り、福岡県を中心に九州各地で年間約130回の演奏活動を行っている。2013年小泉和裕が音楽監督に就任。これまでに、福岡市文化賞、西日本文化賞、文部大臣地域文化功労賞、福岡県文化賞を受賞。



ダンス / 福岡スクールオブミュージック高等専修学校



福岡スクールオブミュージック高等専修学校は、1987年の開校以来32年間の実績を持つ姉妹校に続き、2015年4月に新たに開校した高等専修学校です。中学校卒業から入学し、音楽・ダンス・演技・美容・e-sportsなど専門科目を学びながら、高校卒業同等資格を取得する総合芸能高校です。大学や専門学校などの進学をはじめ海外留学、音楽業界や芸能界へのデビュー・就職など様々な進路選択が可能です。一番大切な事は、大好きなことを通して成長できること。自分らしさを伸ばす3年間がここにあります。

◆ 出演

小田 桜	礼	平	田	シモン	福	光	鈴	愛	三	上	優	菜
行村 絢	羽	橋	本	莉乃	飯	田	蒼	衣	高	田	珠	菜
浦田 大	波	島	田	詩穂	山	口	日	笑	重	松	瑞	稀
池田 大	樹	川	畑	陽乃	川	勝	菜	月美	田	島	佑	基

助演 / 劇団ティンカーベル



昭和56年4月より活動する児童教育「さくらんぼの会」を前身として、平成3年6月「劇団ティンカーベル」を設立。アマチュアによる芸術性の高い「こどもとこどもの心を持った大人の為のオリジナルミュージカル」を創作および発表することにより、青少年の健全育成及び広く市民文化に貢献している。愛や命、自然といった普遍的なテーマを持つオリジナル作品を通して、ファンタジックなティンカーベル独自のスタイルを深めつつ、観る人の心に夢や喜び、元気、勇気が湧いてくる作品創りをめざしている。

歓喜のステージ

ベートーヴェン / 「プロメテウスの創造物」序曲

ベートーヴェンがバレエのために作曲した2曲のうちの1曲で、序曲と16の管弦楽曲で構成されています。1801年3月、ウィーンのホーフブルク劇場で上演され、初演から20回以上も連続上演されるなど、大変人気のある作品だったと言われています。

当時、ベートーヴェンは交響曲第1番を完成させて自信をつけており、舞台音楽にも興味を持ち、当時有名だったイタリアのバレエダンサー、サルヴァトーレ・ヴィガーノから、新しいバレエのための作品を依頼されて作った曲です。現在では序曲だけが独立して演奏されることが多いようです。

プロメテウスというのは、ギリシャ神話に登場する神で、天上の火を人間に与えました。火を手に入れた人間は、生きていくために必要な知識や技術を次々に身につけていき、鋤や剣を作り、農耕を始め、武器を手にも出かけて行くようになりました。しかし、人間に火を与える事に大反対だった全能の神ゼウスは、プロメテウスに罰を与え、カフカス山の岩に鎖で縛り、毎日毎日、大ワシに肝臓を食べさせるという責苦を味わわせます。のちに、英雄ヘラクレスの弓矢によって、この大ワシは殺され、彼は救われますが……。その「プロメテウスの創造物」というのは一体何なのか？想像するしかないのですが……。

ベートーヴェンらしいグングンと迫り来る音楽。「プロメテウスの創造物」をお楽しみください。

ベートーヴェン / 「交響曲第9番」第4楽章(合唱付き)

今年も師走の福博の街にベートーヴェンの歓喜の歌が流れます。

2014年から九州交響楽団とNCBフロイデ合唱団を指揮しているマエストロ、井崎正浩さん(ハンガリー・ソルノク市音楽総監督)は、今回の舞台を前にこう語ってくれました。

「私の役目は、音楽上必要で正確な情報を演奏者に伝えるだけではなく、会場のお客さんと一緒になって演奏会を作り上げていく事、コミュニケーションの仕事だと考えています。広渡先生の構成・演出には、毎回びっくりします。指揮者泣かせです。第九に加えて、オペラ・オペレッタ・バレエ・ダンス・日舞そしてお芝居と毎回演目が変わります。その度に私も自分自身の未知の能力を開発している気になり、毎回驚きと喜びの連続ですね。どうぞ、今宵も上質な音楽とエンターテインメントを心ゆくまで楽しんでください。」

また、九州交響楽団音楽主幹の深澤功さんからは「福岡を中心に九州所縁のパフォーマーたちが結集して行われるNCB音楽祭。私ども九州交響楽団も毎年ご一緒させていただけることに大きな喜びを感じております。我が国を代表する演出家の一人である広渡勲さんの構成と演出、ヨーロッパでも大活躍のマエストロ井崎正浩さんの指揮でエネルギーに展開される二部構成。2020年のベートーヴェン・イヤーを目前に令和元年を寿ぐ『第九フィナーレ』と、わが九州を歌い上げる『九州音楽風土記』の歓喜と喝采のステージの開幕です。胸躍る音楽の祭典にご期待ください。」とのメッセージを頂きました。

西日本オペラ協会の久世安俊先生と中野亮子先生の指導のもと、7か月間にわたって練習を続けてきた「NCBフロイデ合唱団」は200人。全員の想いが一つに繋がった、令和元年を締め括る歓喜の歌声をお届けします。

喝采のステージ

九州音楽風土記

長崎

プッチーニ作曲 歌劇〈蝶々夫人〉より

「愛の二重唱」「ある晴れた日に」「ハミングコーラス」「さらば愛の家」「さようなら坊や」

「私のお父さん」「ある晴れた日に」「だれも寝てはならぬ」「歌に生き、恋に生き」「私の名はミミ」「なんと素晴らしい美人」……。クラシックファンならずとも、一度はどこかで耳にするオペラのアリア。数多くのドラマティックなオペラ、印象的なアリアを書いたイタリアの作曲家プッチーニが、ジョン・ルーサー・ロングの小説「蝶々夫人」を元にオペラ化した「蝶々夫人」。1895年当時の長崎を舞台に、没落した武士の娘・蝶々さんと、長崎にやってきたアメリカの海軍士官ピンカートンの愛と裏切りの物語です。

初演は、1904年ミラノ。当時のヨーロッパの文化人ラフカディオ・ハーンや、ゴッホのジャポニズムに大きな影響を与えています。ヒロインの蝶々夫人は、世界中のソプラノが演じています。歌声はともかく、体格や身振り、着物・髷(まげ)……。15歳の従順で優しく、一途で激しい日本女性には見えず、ちょっと戸惑いを感じることがありますが、今夜の広渡勲演出の蝶々夫人は、安心して楽しんでいただける工夫が凝らされています。

まず「オペラ界随一のメロディメーカー」と言われるプッチーニの美しい旋律をふんだんにお届けします。「愛の二重唱」「ある晴れた日に」「ハミングコーラス」など、ソロで、二重唱で、コーラスでお楽しみください。

次の物語は、ピンカートンと蝶々さんの間に生まれた男の子が、成人して作家になり、両親の愛の軌跡を訪ねて、長崎にやってくるという設定にしています。ピンカートンJr.には、ニューヨーク・ブルックリン生まれのマックスウェル・クラフトが客演。白い妖精たちの幻想的な踊りも加わって、二人の愛の軌跡を辿っていきます。ピンカートンと蝶々夫人には、二期会の重鎮、井ノ上吏さんと嘉目真木子さん。数々のカンパニーで演じてきた二人です。

ドラマティックで、ストーリー展開が速く、情緒豊かで覚えやすいメロディーたっぷりの「蝶々夫人」。広渡勲演出の“プッチーニワールド”に浸ってください。



大河ドラマ「西郷どん」序曲(作曲:富貴晴美) 「田原坂」(編曲:山下康介)

2018年1月から放送された大河ドラマ「西郷どん」。

俳優西田敏行さんのナレーション、鈴木亮平さん演じる西郷どん(西郷隆盛)は、数々の名場面がありました。「チェスト!」「今宵はここでよかろうかい……」などの流行語も生まれましたね。

明治維新・動乱期の日本をリードした、西郷隆盛を描いたドラマ「西郷どん」序曲。ドラマチックで堂々とした演奏を展開します。

続いて歌われるのは、田原坂の戦いを歌った熊本県民謡「田原坂」。

佐賀の乱、神風連の乱、秋月の乱、萩の乱……。明治政府の近代化政策によって誇りと禄を失った士族の反乱が続きました。そして明治10年2月、西郷隆盛を盟主と仰ぐ薩摩士族の反乱、西南戦争が勃発。3月4日から20日にかけて、今の熊本市植木町にある「田原坂」を巡り、官軍と薩摩軍が対峙。17日間、昼夜にわたって一進一退を繰り返す激戦を展開しました。

政府軍は最新の武器を装備、洋式の軍服が支給されており、兵員と物資の補給力、更に電信通信網の完備など軍備が整っていました。薩摩軍も善戦しますが3月20日、ついに敗走する事になります。この「田原坂」で亡くなった政府軍と薩摩軍は、合わせて3,660人とも言われています。その「田原坂」の戦いの様子を歌った熊本県民謡「田原坂」。

～雨は降る降る 人馬は濡れる 越すに越されぬ 田原坂～

大山大輔さんの朗々としたバリトンで、往時の兵士たちの心情を偲んでください。



「曼珠沙華」

作詩:北原白秋 作曲:山田耕筰 編曲:山下康介

舞台は、秋の柳川。畦に咲く真っ赤な曼珠沙華がテーマです。

北原白秋の詩集「思い出」の中に収められている詩に山田耕筰が曲をつけています。ソリストの八木寿子さんは大正ロマン風の衣装で登場。合唱団をバックに、妖しく、少し怖い世界を歌います。

詩の中の「ごんしゃん」とは柳川地方の方言で、良家の娘さんという意味です。

合唱組曲〈筑後川〉より「河口」

作詩：丸山豊 作曲：團伊玖磨

阿蘇、瀬の本を水源に、全長143km、流域面積2,860km²。九州北部を東から西へ流れて有明海に注ぐ九州最大の大川筑後川をテーマに團伊玖磨が作曲した合唱組曲「筑後川」。

第1章の「みなかみ」にはじまり、第5章の「河口」まで5つの楽章で構成されています。

この曲は、久留米音協合唱団の創立5周年記念演奏会のために新曲を依頼された團伊玖磨が地元の医師で詩人の丸山豊に作詩を依頼して書き下ろした曲です。今から51年前の1968年12月20日、石橋文化ホールで團伊玖磨自身が指揮して初演されました。

1973年第1章「みなかみ」が、全日本合唱コンクールの課題曲に指定。続いて86年に第5章「河口」がNHK全国学校音楽コンクール高等学校の部の課題曲となり、88年には高等学校の音楽の教科書に採用されるなど、たくさんの人たちに広く歌われている合唱曲です。

作曲をした團伊玖磨は、岩倉使節団に同行してアメリカに渡りマサチューセッツ工科大学を卒業して帰国後に三井財閥の総帥となった團琢磨を祖父に、美術史家・実業家として貴族院男爵議員も勤めた團伊能を父に持ちます。伊玖磨は、東京音楽学校で作曲を学び、1953年には芥川也寸志・黛敏郎と3人の会を作り、戦後の日本の音楽に新風を吹き込んだ作曲家です。江間章子作詩の「花の街」や、オペラ「夕鶴」「楊貴妃」「ひかりごけ」「素戔鳴」などを残しています。

第5章の「河口」はフォルテで始まり、終結部はフォルテシモの和音、クレッシェンドで終わるといった壮大な曲です。有明海から東シナ海、太平洋へと旅立っていく、若者達への応援歌として卒業式でもよく歌われています。

大河ドラマ「黒田官兵衛」序曲 (作曲：菅野祐悟)

「黒田節」「オッペケペー」 (編曲：山本和彦)

「祝いめでた～博多どんたく」 (編曲：山下康介)

NCB音楽祭2019九州音楽風土記のフィナーレは、博多のまつりです。

講談師 神田紅さんが、令和元年を語り、続いて「黒田官兵衛」の序曲を九州交響楽団が力強く演奏します。それに合わせて舞うのは、東京バレエ団から歌舞伎の世界に入り、人間国宝 坂東玉三郎に師事して日本舞踊に転身した梅川壱ノ介さん。

変わって「黒田節」。6歳から三味線を、10歳から日本舞踊を習い「歌・舞・演」という独自のジャンルで、日本の伝統芸能を世界各地に発信している藤間修一郎さんと藤間裕太郎さんが舞います。

続いて舞台には、下駄履き姿の書生が登場。紅さんの歌に合わせて、「オッペケペー」で、現世を風刺。中央の権力には負けないぞ……と博多っ子の意気を謳い上げます。

フィナーレは、博多恒例の「祝いめでた」と「博多どんたく」。格調高くにぎやかに、出演者総出で舞台を飾ります。

NCBフロイデ合唱団

SOPRANO

ソプラノ

佳美子 子代子 子子子
 千博由美 千郁洋 知啓
 田本尾田 寄下本 浅永
 益宮森安山 山山湯吉
 美子 瞳え子子子 美子
 由智 こ君紀浩享聡 美智
 本 田田永施多田
 橋林原原原福布本前
 子子子 織子子未弓子
 智悦京美香垂希有真佳
 石中端西松代田村屋田
 立田田中中永成西柵野
 子子子 里香子幸江
 敦ふ説田多由里依美澄
 斐原藤田池松田田 信
 甲笠加神菊小酒篠角台
 子子子 代江稀雪玲加
 綾美彌加奈 茂俊結美美有
 吉藤井原谷上上口野智
 有安石石板井井井梅越

ALTO

アルト

子子晶ひ子子美代子子子
 美都る美子美代子子子
 有以千は由祐直政智美知恵
 鳥隈地藤利本増崎田本村
 待松宮武毛森安山山山吉
 美子子子美子美江子代子
 貴裕富和直美尚文陽道理
 納原島嶋田村口口方野田
 殿豊中長永中野野平平藤
 子子美子子子子里子子
 則光晴陸朝裕文満有理淳
 井井藤数木津浜内田中口
 坂櫻佐白鈴高竹多田谷
 子江恵子り子子子后子子
 貴公淑尚ま美千文紀幸和
 藤野原村島岡田戸賀賀寺
 加川川川北倉香合古古小
 子香子代子美子子子子
 枝由幸瑞美麻の知百合佳
 木雲尾川北佐童上藤浦方
 青朝飯石石岩大江江大緒

TENOR

テノール

洋郎 一道
 太長 伸博
 原田 崎田
 松宮 山山
 典彦 幸徹 司彦 晃
 武敦 義一 雅浩
 山 田代 田庄
 見林 半萬 藤古堀
 一幸 美久 茂夫 一
 栄隆 雅和 二昭
 築中 中川 川塩崎
 高田 田富 中中野
 夫裕 義吉 郎紀 雄
 郁隆 雅郷 裕英 紀
 岡野 賀生 井田 藤
 倉桑 古国 坂酒 佐
 郎康 之知 博恭 夫
 一守 裕良 辰信 敏
 野野 山方 島本 連
 内梅 浦緒 茅岸 喜

BASS

バス

司洋 宏徹 治治
 上利 本口 中田
 村毛 森山 山吉
 郎聡 司右 徳夫 志
 大治 浩勝 尚富 和
 川野 崎尾 田子 中
 中中 野蓮 原真 宗
 文治 毅法 明一一
 浩隆 功友 正裕 雅
 木 仲口 原原 重
 鈴関 田谷 田塚 徳
 郎允 彦一 二土 久
 一 昭 雄勇 健和
 玉林 藤井 澤藤 水
 児小 近桜 塩重 清
 秀宏 一修 豊彦 一
 道洋 仲洋
 雲間 種月 島木 嶋
 朝漆 江香 霧黒 小



合唱指導・出演
久世 安俊

福岡教育大学大学院教育研究科音楽教育専攻修了。これまでに、西日本オペラ協会公演のオペラ「フィガロの結婚」、「コジファン・トゥッテ」、「愛の妙薬」ほか、数多くの舞台に出演。また、バッハの受難曲やカンタータ、ヘンデル、モーツァルト、フォーレなど教会音楽のソリストも務める他、合唱指揮者としても活躍。現在、近畿大学九州短期大学教授。西日本オペラ協会理事、RKB女声合唱団指揮者、NCBコールアカデミア指揮者。福岡ソリスト会員。



合唱指導
中野 亮子

岩手県盛岡市出身。お茶の水女子大学音楽科卒業、同大学院修了。二期会オペラ研究所マスタークラス修了。元お茶の水女子大学音楽科非常勤講師。2017年より福岡在住。西日本オペラ協会会員。二期会会員。



合唱ピアノ
大森 美樹

福岡教育大学卒、同大学院修了。西日本オペラ協会「コンセルビエール」ピアニストをはじめ、声楽・アンサンブルピアニストとして活躍中。音楽室「Coeur de Musique」主宰。



舞踏振付
殿畑 敦子

福岡県出身。昭和音楽芸術学院バレエ科卒業後、スペインのCentro Andaluz de Danzaにコンテンポラリーダンサーとして入団、ヨーロッパ各地の公演に出演。その後ニューヨークに渡り、アメリカダンス史上もっとも長い歴史をもつマーサ・グラハムダンスカンパニーに入団し、世界各地の公演に出演。現在は、福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校でダンス講師として活躍。



編曲
山下 康介

1974年、静岡県生まれ。東京音楽大学作曲専攻卒業。映画「花筐／HANAGATAMI」「その日のまえに」などの大林宣彦監督作品に多く携わるほか、NHK連続テレビ小説「瞳」やドラマ「花より男子」、アニメ「ちはやふる」などの音楽がある。現在、洗足学園音楽大学教授、東京音楽大学客員教授。一般社団法人日本作編曲家協会(JCAA)理事。



編曲
山本 和彦

下関市出身。東京芸術大学音楽学部卒、同大学院修了。1987年九州交響楽団にコントラバス奏者として入団。現在、演奏家としての活動に加えて作曲家・編曲家・指揮者としても活躍中。山口県立下関中等教育学校校歌をはじめ、学校・自治体・企業・病院などの歌・応援歌も作曲・編曲するなど幅広く活動している。明治維新150年を記念して高杉晋作を題材に「晋作見参～視海燃ゆ」を作曲、東映ジョイスOUNDカラオケに搭載。

★ スタッフ

舞台監督 / 鶴野 良平 (株)九州舞台
青木 一雄 Staff Team Artisan
田中 敬子 Staff Team Artisan
舞台美術 / 木村 康彦 (株)九州共立
照明 / 竹之内昌治 (株)九州舞台
音響 / 稲益 絵美 (株)九州舞台
映像 / 深水 智之 (株)九州舞台

特殊効果 / (株)ギミック
衣装 / 下斗米大輔 (株)エフ・ジー・ジー
鶴岡 雅子 (株)エフ・ジー・ジー
大道具 / (有)メイク
ヘア&メイク / 本田 義晴 arch
片山 かすみ bruna.HAIR
坂下 美晴 ヒビノ

ぜひお聴きください

「NCB音楽祭2019」は、12月29日(日)19:00～21:00にFM福岡で放送されます。



西日本シティ銀行



公益財団法人

福岡文化財団

